

菜園と投稿のコラボ

渡辺 勇三 奈良県宇陀市 八十一歳

土に働きかけて、太陽と雨を信じて種を蒔けば結果はついてくると思えるほど、自給自足の暮らしに感謝の日々を送る私。かつて会社をリストラされて途方に暮れたが、農耕の世界では裏切られることはなく、自然に恵まれた中山間で菜園を楽しむ喜びを体感している。

なにがいかとって、土いじりや野菜に触れると、もやもやした気分も晴れ、ひよいとアイデアやヒントが浮かんでくるのはたまらない魅力だ。

自給自足の生活を夢見ていたのは確かで、人間関係が疎遠になりがちな都会より、田舎のほうがどれだけ人間のかと思えるようになった。生活習慣病から抜け出すのに野菜中心の食事とと思い立った私は、家庭菜園を始め、妻も協力して野菜ふんだんのメニューを心がけてくれる。

隔月に通う市立病院の内科検診で、ヘモグロビンやグルコース(血糖値)が少しずつ正常値に近づき、医師からこの調子でと励まされ続けている。

元気が出る畑での副産物といえば、なぜか、川柳のお題に合う五七五がほんわかと顔をのぞかせるから不思議で、その句がたまたま新聞に載り、ラジオから聞こえると、わくわくするではないか。

健康体を取り戻しつつあるのは本当に嬉しいし、人間に戻れる時間の趣味として、投稿の愉しみが一つ加わり、私のこの上のない喜びになった。

夏野菜の手入れや川柳、短歌の投稿に精を出し、夜は九時には床に就く習慣に、愚痴や不満をいう暇もない。